


2020 ~ 2021 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーは機会の扉を開く

●会長 松本 一也
●幹事 福井 学

 No.1704 令和 02 年 07 月 22 日 第 04 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <http://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org

ロータリーは機会の扉を開く

■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「それでこそロータリー」

■直前幹事へ記念バッジの贈呈

■会長の時間 (会長 松本一也)



「大江戸模様」

江戸時代の中期から後期にかけての日本の人口は、2,600万人から2,700万人位だったと言われています。

江戸に限れば、人口は約110万人で、当時のロンドンが約70万人、パリが約50万人だったといわれ、如何に江戸の人口が多かったかということが分かります。ちなみに、男女の比率はだいたい2対1くらいだったそうです。その理由は、参勤交代があり各大名の家臣が単身赴任で江戸に来ていた事と、近隣諸国の仕事がない農家の二男三男が仕事を求めて江戸に流れ込んでいたという事情がありました。良かったですね~江戸に生まれなくて、

1635年武家諸法度により参勤交代制度が定められ、全国の大名が1年おきに江戸と自分の領地を行き来しなければならず、正室と世継ぎは江戸に在住しなければなりません。正室と世継ぎは人質なので、それを逃がさないように、関所では、出女と入り鉄砲を重点的に取り締まったと言われています。

なぜ幕府が参勤交代制度をとったかという、幕府創設の慶長10年当時の石高は全国の大名を合わせると、約2,200万石になり、天領等の幕府の石高約240万石を遥かに超えていました。そこで、大名に自分の領地から江戸までの旅費を負担させ、それのみならず滞在費をも掛かるようにし、諸藩の経済力・軍力を低下させ、幕府への反逆を防ぐ魂胆があったと言われています。参勤交代も、兵役の一つなので各大名の石高により、行列の規模が定められていました。1万石の大名で、騎馬4騎、足軽20人、中間30人。10万石で、騎馬10騎、足軽80人、中間150人。20万石以上は、騎馬20騎、足軽130人、中間300人。というふうです。

しかし、諸大名は、体面を守り、藩の権勢を誇示するため、義務付けられた以上の行列を行つたようです。

ちなみに、どれだけの旅費等が掛かったかという、仙台伊達家(石高63万石、道のり368キロ、日数8~9日、行列規模2,000~3,000人、経費3,000両~5,000両)、加賀前田家(石高103万石、道のり480キロ、日数13日、行列規模2,000~4,000人、経費5,333両)、摩摩島津家(石高77万石、道のり1,700キロ、日数40~60日、行列規模1,880人、経費17,000両)となります。参勤交代が各藩にとって大変な負担だったという事が分かります。

江戸時代は、もちろん幕府独裁の封建時代でした。

現在の、三権分立の政治制度からは程遠く、立法・司法・行政を幕府が一手に掌握していました。

町奉行所は行政・司法0警察を担い、現代でいえば、都知事・地方裁判所長官・警視総監を兼任していたようなものです。

組織は、南北二つの奉行所に分かれており、それぞれに町奉行1名、与力25騎、同心120名が所属しており、南北それぞれの奉行所が隔月で取締に当たっていました。取締に当たっていない月の奉行所は、遊んでいた訳ではなく、訴状の吟味、書類作成などの内業に当たっていたようです。

今の東京都で、警察職員一人当たり、何人の都民を守っているかという、人口1400万人(2020年5月1日現在)警察職員46,581人(2020年1月1日現在)一人当たり約300人。江戸では、人口110万人の内、町人が50万人、北または南町奉行所の人数146人(町奉行1人・与力25人、同心120人)、一人当たり約3,424人になります。町奉行所は警察だけでなく司法・行政も担っていたので、実際はもつと多くなると考えられます。

この時代の裁判は、吟味筋と出入筋に分かれており、吟味筋が刑事裁判で出入筋が民事裁判でした。

この中で、出入筋の民事裁判について述べてみたいと思います。民事裁判も大きく分けて、借金等金銭トラブルに関する「金公事」と、それ以外の、村同士の境界争い、入会権の争い、農業用水をめぐる争い等の「本公事」がありました。

訴える方は、「目安」訴状を管轄の奉行所に提出して、書式が調っていれば受理されました。しかし、農民は目安を書くことが難しく、また遠くから来る人々も多かったため、宿屋に泊まり、専門家である宿屋の主人から目安を作成した貴い奉行所に提出してもらっていました。これを公事宿と称しました。

■幹事報告

(幹事 福井 学)



1) 和歌山東南RCより、集中豪雨被害のお見舞い。

2) 大森克磨 ガバナーエレクト、森永隆二 次期地区幹事より、2021～2022年度地区委員推薦のお願い。
(推薦書提出期日：9月4日)

3) 第1回前年度理事会報告。

4) 本日例会終了後に、第1回臨時理事会を開催いたします。

■ロータリー情報の時間

(ロータリー情報担当委員 佐野 茂)



姉妹クラブ選定の経緯について

姉妹クラブ選定については、今までまとまった話をしていませんでしたが、新しい会員も多く入会されておりますので、この機会に締結当時の経緯について申し上げたいと存じます。

まず、台湾の板橋南区ロータリークラブとの姉妹クラブ締結ですが、私共のクラブが創立して4年目でまだクラブのあり方を勉強中でした。その時の会長は私、佐野でしたが、熊本のあるパストガバナーから「韓国の二つの地区のパストガバナーから『熊本のクラブとぜひ姉妹クラブを締結したいのでよろしく』との申し入れがあり、東南クラブで一つを是非引き受けてくれないか」と打診があり、今にも韓国側から来熊する情勢でした。

当時日本の先輩クラブでは、姉妹クラブに韓国はありましたが、他に台湾、フィリピンがありましたので、パストガバナーへの返事として「他の国のロータリークラブの調査をしたうえで態度を決めたい」として急遠国際奉仕委員会のメンバーに台湾とフィリピンに調査に行ってもらいました。調査団は、はじめ特別市の台北市の2クラブを訪問しましたが、いずれも日本の東京あるいは鹿児島とすでに姉妹クラブ締結をしてお困っておりましたところ、台北市に隣接した板橋市に最近創立した新クラブがあるという情報を得ましたので、まずはメイクアップをしてみようと板橋南区扶輪社のタ1会訪問をしたところ、日本からロータリアンが訪問してきたと大歓迎してくれまして、台湾に来た理由を話したところ、このクラブが、日本との姉妹クラブを大変乗り気になりました。

調査団の報告によりますと、
・初代会長の郭氏は、元板橋市長であったこと。
・亮氏は台北県の県会議員であること。
・歳の40代、50代の数名の会員は日本語が堪能で若い会員の通訳をしてくれる。

・純粋の台湾生まれの台湾育ちの会員ばかりであること。

このような報告を受けて、わがクラブとしても積極的に推進しようと決定し、その後相互に電話連絡をしながら、翌年の板橋南区扶輪社創立1周年記念式典の時に、我がクラブから出向いて姉妹クラブ締結の調印を行うことになりました。

それと同時に韓国のクラブとの姉妹クラブを推奨しておりましたパストガバナーには、事情を説明し鄭重にお断わり申し上げました。

締結時のわが方の会長は永井氏、幹事が平野氏でしたが、出発当日、永井会長の運送トラックが東北で事故を起こしたということで、会長は急遠事故現場に向かなければならなくなり、平野幹事が代行して調印しました。

当初から暫くは姉妹クラブ協定を3年ごとに更新していましたが、現在では5年ごとに更新期間を延長しています。以上が台湾、板橋南区扶輪社との姉妹クラブ締結の経緯のあらましです。

それから、今一つの和歌山東南ロータリークラブとの姉妹クラブの経緯ですが、こちらは、和歌山東南ロータリークラブの方から、30周年の記念に九州にある同じ東南クラブ名称の一つと友好クラブを締結しようと、福岡東南クラブ、鹿児島東南クラブ、熊本東南クラブの3クラブの比較検討をしたということで、その結果、熊本東南が望ましいということになったようで、わがクラブに申し入れがありました。

当時の荒木会長、古庄幹事のもとでクラブで協議した結果、2000年に和歌山東南30周年記念式典が沖縄で行われた時に友好クラブを締結し、2004年のわがクラブの20周年記念事業の一つとして和歌山東南ロータリークラブと姉妹クラブを締結いたしました。

■委員会報告(青少年奉仕担当 宮川義行)



アクト7月第2例会が7月28日20時よりZoomで行われます。桜井会長より、クラブの運営・現状についての話と、全体での話し合いが予定されています。アクトは月2回例会を行っています。基本的には第2・第4火曜日の20時から現在はZoomで行っています。ロータリーアン参加自由ですので皆さんのご来訪をお願いします。

■出席報告

(出席・プログラム担当委員 杉本整哉)



月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率(%)
07月08日	42 (免4) 38	30	3	33	86.84
07月22日	42 (免4) 38	30			78.95

☆出席免除

07月08日 住江正治 島村徹男 鷺山法雲 志賀重人
07月22日 住江正治 島村徹男 鷺山法雲 古庄浩二

☆欠席者(5名)

07月08日 山本浩之 山坂哲生 川崎誠治 前田昭博
小野川善久

今度の100%出席の日は 08月26日です。

■スマイル

(親睦・スマイル担当 堀内健太郎)

◎宮川義行 7,000円



家族会に参加された皆様お疲れ様でした。年に2回の家族会を楽しみにされている方ばかりで楽しい1日でした。

継続は力なり。伝承あそび、サマーキャンプ、家族旅行、自転車贈呈、里親と、30年以上取り組んで継続してきた努力は素晴らしいですね。これからも会員増強と健康に気をつけてロータリーを学んでいきたいと思っております。

人吉、芦北、球磨等ではほとんどのロータリアンが被災されています。クラブとして支援の取り組みができればいいですね。

■新年度方針

(奉仕プロジェクト委員長 内田信行)



奉仕プロジェクト委員会は、5つの委員会に分かれており、それぞれの委員会担当委員長から、活動方針、実施計画が発表されます。職業奉仕委員会担当に古田会員、国際奉仕担当委員長に彌富会員、姉妹クラブ担当委員長に堤会員、社会奉仕担当委員長

前田会員、青少年奉仕担当委員長宮川会員です。本来なら、活動計画書作る前に委員会で、集まって会議を開催し活動計画、実施計画について会議でもすれば良かったのですが、発表後の炉辺会合となりますが、今後奉仕プロジェクト委員会として何をしないといけないかを話し合いたいと思っております。

これは、ロータリークラブとは無関係ですが、私が利用させて頂いている女性の個人タクシーの方ですが、少しでも被災地に行って手伝いをしたいと思って、人吉に一人でボランティア活動に行ったそうです。色々なボランティア活動あると思いますが、私達も見習う所もあると思います。他の知り合いもグループで人吉ボランティア活動を行っている時に、たまたま熊日の取材を受け日曜日朝刊に写真記載されて居ました。いい社会奉仕だと思います。また、事務局からの情報ですが、熊本城東RC会員で地区幹事も務められた井上弘太郎会員(光進建設株式会社)が人吉出身で弟さんが人吉にいらっしゃるそうで、人吉でボランティア活動を検討する際は活動場所などの情報を提供して下さるそうです。

(職業奉仕担当 古田哲朗)

四つのテストを基本にして、会員の職責の倫理、道徳、品位を高める。各会員が実践している職業奉仕があれば、それを共有する。それにより、職業奉仕の実践について一歩踏み込んだ議論を行う。



(社会奉仕担当 前田日出夫)

活動方針：

(1) 当クラブは、地域社会にある児童養護施設の福祉向上支援、青少年支援を長きに渡って行ってきた。本年度も支援と交流を継続して行う。

(2) 新たな社会奉仕として、地域社会のニーズを捉えた、時代に合った奉仕のあり方・内容を検討(RCC:ロータリー地域社会共同体など)する。
また、国際奉仕委員会など、関係委員会と連携して、グローバル補助金活用の検討をする。

実施計画：

- (1) 慈愛園サマーキャンプ支援と交流
- (2) 児童福祉施設高校進学児通学自転車購入支援地区補助金活用
- (3) 泉ヶ丘校区伝承遊びの集い支援と交流
- (4) 熊本少年友の会支援
- (5) 認定特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・熊本 本支援
- (6) RCC(ロータリー地域社会共同体)の魅力と可能性についての検討
- (7) 関係委員会と連携して、グローバル補助金の活用検討

(青少年奉仕担当 宮川義行)

活動方針：

- (1) アクト会員の会員数の減少により、存続の危機に直面している現状を認識し、熊本東南ロータリー全会員がアクト会員獲得に努力する。
- (2) アクトの例会を魅力的なものにするため、熊本東南ロータリー一会員の参加協力をお願いする。
- (3) 慈愛園サマーキャンプ及び伝承遊びの集いへの参加応援をする。
- (4) ロータリアンとの親睦を深める為に、アクト会員に家族会や青少年奉仕月間卓話等への積極的な参加を促す。

実施計画：

- (1) アクト・ロータリアンが、友人・知人・他のクラブの米山奨学生等に、アクトへの入会を勧める。
- (2) アクト例会にロータリアンの参加を呼びかける。
- (3) 他クラブと連携し、アクト活動の進歩を語り更なる高みを目指す。
- (4) 継続的な奉仕活動を考える。
- (5) アクト例会、活動内容等を、ロータリアンに伝える。
- (6) アクト例会では今後、コロナ対策等も含めて、Zoomミーティング等も活用する。

(国際奉仕担当 彌富照皇)

活動方針：

ロータリークラブ五大奉仕の第四部門にある国際奉仕の精神は、「世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する」ことにあります。他国の人々を助けることを目的としたあらゆる活動やプロジェクトに進んで協力することにより、その文化や習慣、功績、問題に対する認識を培うことができます。ますます国際化が進む中、これらを理解、認識することがとても大切だと考えます。皆様に協力をいただきながら、小さなことでも、少しずつでも自分にできることを取り組んでいきたいと思っております。



実施計画：

- (1) グローバル補助金などを活用し、多様な国際奉仕活動が実施できるように支援する。
- (2) 国際奉仕に関連する月間において、クラブの関連プログラムに協力する。
- (3) フィリピンの里親支援継続。
- (4) 米山奨学生の例会参加奨励。
- (5) 米山奨学会への寄付の奨励に努める。
- (6) 国際大会への参加を奨励する。

(姉妹クラブ・交換学生 堤 勝也)

活動方針：

- (1) 板橋南區扶輪社、和歌山東南、宇佐ロータリークラブとの親睦を深める。
- (2) 交換留学生の応募については積極的に対応する。



実施計画：

- (1) 和歌山東南ロータリークラブ 50 周年への訪問
- (2) 板橋南區扶輪社との調印式(予定) 歓迎会等の実施

(長期戦略委員長 松本 繁)

活動方針：

私たち熊本東南ロータリークラブは常に、“Joyful and Good” 楽しい 良いそして、笑顔いっぱいのクラブを目指します。



- (1) 私たちは親睦と奉仕に対して、真摯に取り組み、クラブの質の向上を目指します。
- (2) 会員が集い、語り、互いに学び合うことで、より心豊かな人生を送ります。
- (3) ロータリアンであることに誇りと、喜びを感じます。

実施計画：

- (1) 中期3ヶ年(2020年7月～2023年6月)計画書(案)を策定する。

会員増強、出席率UP、奉仕活動、親睦活動など
(その年度の会長活動方針の参考にしよう)

- (2) 退会防止に努める。
- (3) 年間4回以上(炉辺会合を含む)委員会を開催する。
- (4) 当クラブの創立40周年記念式典、行事について検討をする。
- (5) 熊本東南ロータリークラブの歌“Joyful and Good”・“未来”を第1週例会で唱和する。

*会員数の変遷

2015年7月1日	内田敏視会長	40名
2016年4月	熊本地震	
2016年7月1日	永野昭一会長	37名
2017年7月1日	白木誠一会長	37名
2018年7月1日	白石 繁会長	45名
2019年7月1日	内田信行会長	44名
2020年3月から	新型コロナウイルス	
2020年7月1日	松本一也会長	42名

■点鐘

編集者 永野昭一

■今後の予定

7月	07月30(木)	第1回熊本市域RC 会長・幹事会	熊本県 熊本市	A N A クラウンプラザホテル 熊本ニュースカイ
松本一也、福井 学				

ロータリーボイスより

日本のロータリーが One Team に ～『医療従事者を守ろう』

投稿日：7月7, 2020

寄稿者：福田哲三(名古屋和合ロータリークラブ)



ロータリーからフェイスシールドの寄贈を受けた大同病院(名古屋市)の医療従事者の方々

COVID-19 禍の中、我々ロータリアンは活動を阻む難しい現実に直面しました。資金があっても医療機器・資材を購入できない、集まってチームを組めない、困っている人たちに直接会って励ますこともできない等々。海外の仲間たちからも「人工呼吸器を送って欲しい」「医療用マスクが足りない」などの数多くの支援要請が届いたものの、日本でも医療用アイテムは入手できないというもどかしい日々が続いていました。

そして届いたブラジルの友人の動画…「自分たちでフェイスシールドを作ったよ」。そうか、購入できなければ自ら作れば良い、と思い立ったのが3月下旬でした。友人と『300個くらい作ろうかな』で始まった取組みは、その後図らずも地元の資材メーカーや加工会社約10社の協力を得ることとなり、大量生産が可能になりました。そして4月中旬には2760地区の伊藤靖祐(やすすけ) ガバナーの呼びかけで国内全34地区のガバナーたちが One Team となって取り組むという大事業となりました。34人のガバナーの熱意とパワーが大きな原動力となり、『医療従事者を守ろう』という号令のもと、全国に寄贈されたフェイスシールドの数は5月下旬までに100万個を超えました。

IMG_9422 また、4月下旬になると海外からフェイスシールドを送って欲しいとの依頼が届くようになりました。SNS等で日本でのフェイスシールド事業を知ったようです。そこで再び全地区に打診した結果、23地区が参加してブラジル、ペルー、フィリピン、マレーシアに合計約55万個を送ることになりました。現在、ロータリー財団本部にグローバル補助金の申請をしているところです。各国政府(保健省)の協力のもと輸入関税を免除してもらい、現地ロータリアンの手によって医療現場に届ける計画です。



また、バングラデシュやインド、パキスタン、インドネシアなどからもフェイスシールドの支援依頼が来ています。今後の日本の第2波、第3波の状況と合わせて、引き続きロータリーの力を結集して新型コロナウイルス感染症に対峙していきたいと思えます。